

東京未来ビジョン懇談会（第1回）

平成29年1月30日（月）

—議事概要—

東京未来ビジョン懇談会（第1回）

平成29年 1月30日

【潮田次長】 本日は、皆様、大変ご多忙のところお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。定刻になりましたので、第1回「東京未来ビジョン懇談会」を開会いたします。

本日の進行役を務めます、東京都政策企画局次長の潮田でございます。よろしくお願いいたします。

初めに、会議の公開についてご説明をいたします。本日の会議の様子は、東京都のホームページ上でインターネット中継により配信をされております。報道機関の皆様は、小池知事のご挨拶、メンバーの皆様のご挨拶まで取材が可能です。また、本日の会議資料、議事概要、中継映像につきましては、ホームページ上に公開をいたします。

それでは、開会に当たりまして、小池知事よりご挨拶をいただきます。知事、よろしくお願いいたします。

【小池知事】 皆さん、こんにちは。東京都知事の小池百合子でございます。今朝からもう本当に、最初からとてもわくわくしております。東京の未来を語っていただける、そんな若い世代の皆様方から本音をお聞きしたいなという、そのためにこのビジョン懇談会を設けさせていただいています。それぞれの色々な分野の方がいらっしゃいますけれども、合計しますと16名（小池知事を含む）。今日はほとんどの皆さんにご参加いただくこととなっております。田根さんはパリから駆けつけてくださって、ありがとうございます。

私は別に豊洲問題とオリンピック問題だけをやっているのではありません。この東京は、世界の中でも有数なメガシティであります。そして、2020年には、オリンピック・パラリンピックが開催されます。何と私は1964年の1回目のオリンピックのときは小学生で、別に私は走ってはいませんが、アベベ選手というエチオピアの選手がマラソンでゴールインするそのシーンを白黒テレビで見たのをいまだによく覚えています。

そして、今度は2020年のオリンピック・パラリンピック、この東京が舞台になるわけですが、そのためにも新しい東京をつくりたいと思っています。誰にとっても安全・安心なまち・東京、それから、女性も男性も若者も、それから、お年を召した方も、障害を持った方も、みんなが輝けるような東京。そして、私、環境大臣もやってまいりま

した。そして、もともとは経済キャスターをやってきております。環境、そして、国際金融の先進都市・東京をつくりたい。これで3つのシティというのをつくりたいと思っています。

そして、2020年のことだけを考えてはいけません。その後2025年にはこの東京でさえピーク、そこで頭打ちになってしまうという予測があります。2030年、40年、50年、私いつまで生きているか分かりませんが、皆さん次の世代がこんな東京であってほしいなというそんな本音を語っていただく、そんな場所を設けたいと考えたのが今回のこの東京都のビジョン懇談会、略してビジョ懇。美女ぞろいですから。男性もいらっしゃいますけれども、美男も含めて。

そして、皆さんからもう本音の話をどんどん聞かせていただきたいと思っています。あまり会議、会議みたいにしてほしいのはちょっとどうかと思うので、この後は東京都のホームページだけで見られるという形で。すごいカメラでしょう？こんな構えられちゃったら、なかなか本音も言いにくい。ただし、情報公開はさせていただきますので、ホームページでは、インターネット中継はさせていただくということになります。ということで、皆さんに未来を語っていただくためのこの懇談会、是非皆さん同士で、あっ、こんな考え方もあるんだというような、そんなわくわく感が出るような、そんな会議にしていきたいと思っています。

そこで、今日はこの後、プレゼンターに伊勢谷さん、そして、何と高校生内閣では総理大臣が来られました。(飯野) 桜子ちゃんに来ていただきました。そして、あなたは何大臣？

【浜田愛音様】 官房長官です。

【小池知事】 官房長官？ すごいんですよ。高校生で内閣が出来ちゃっているんですね。ということで、今日は伊勢谷さんと、それから、飯野さんからプレゼンテーションをお願いして、それをベースにしながら皆さんでそれぞれアイデア、それから、思いを語っていただきたいと思います。

そこで、ちょっと頭の体操として、こんなことを私の方から紹介していきたいと思えます。これは報知新聞という、知ってる？ 原敬内閣という時代がありました。原敬はかつてこの報知新聞の記者だったことがある。ということで、今は何かジャイアンツの新聞のように思われるかもしれませんが、報知新聞というのはとても歴史のある新聞です。

これが1901年1月3日、その前の1月2日も同じようにあるんですけども、これが2日

の新聞、そして、翌日3日の新聞です。大体、お正月の新聞というのは、未来はこうなるとか、こんな21世紀の世界とかとあって、すごく期待を込めてそういう紙面をつくる傾向があるんですけども、さあ、この報知新聞の1901年、つまり、20世紀の最初の日ですね。20世紀というのは1901年から始まりますから。そして、そこに出ていた、ちょっと細かかったから読めないと思いますけれども、どんなことが書いてあるかという、無線電信電話の発達で、東京にいる人がロンドン、ニューヨークの友人と自由に会話できる。当たり前と思われるかもしれませんが、これ、百何十年前の話です。

ヨーロッパでの出来事を写した写真はカラーで東京の新聞社に送れる。当たり前でしょう？

それから、19世紀には80日を要した世界一周の旅が20世紀末には7日間で可能になる。7日どころじゃありませんね。もっともっとスピードアップしている。

これ、すごいです。元防衛大臣として申し上げるわけではないけれど、空中を軍艦が飛び、大砲も空に浮かぶ。戦闘機ですよ、これ。これはライト兄弟の最初の飛行の前後にこういう発想をしている。

それから、新しい機器が暑さ寒さを調節する。エアコンですよ。そのころは、火鉢があつたり、こたつがあつたり、夏は打ち水なんかをしていた頃でしょうね。1901年です。

写真電話により遠距離にある品物のショッピングができるって、これ、通販。楽天とかアマゾンとかもう普通にやっている。この後のくだりがあるって、それは地中の土管を通じて物は配達できるというのがあるんだけど、何かドローンになりそうな感じですね。

その最後ですけれども、馬車にかわって自動車が普及するというのがあります。T型フォードという自動車の大量生産が始まったのも大体この頃なんですね。その頃に馬車はもう、見てください。好奇心の強い者だけが馬を飼育する。好奇心の強い者だけが競馬にお金をかけるかもしれません。

でも、こんな1世紀も前に新聞記者の皆さんが多分ああでもないこうでもないと言っただけがこの記事ではないかなと思います。100年経った今、皆さんどうお考えになりましたか。すごいことが、100年間でこういう、当時嘘だと思われたものが現実のものになっているということです。

これをまず私のプレゼンテーションとさせていただいて、頭の体操として、さあ、2020年、さらには2025年には人口がピーク、2030年、2050年、皆さんこれからどんな東京であってほしいか考えてほしいと思っています。ということで、今日は楽しい、わくわくする、

そんな懇談会にしていきたいと思っておりますので、自由にご発言もいただきたいと思っております。これからもよろしくお願いいたします。ありがとうございました。

【潮田次長】 知事、ありがとうございました。

続きまして、本日のご出席のメンバーの皆様をご紹介させていただきます。

初めに、俳優、映画監督、リバースプロジェクト代表、伊勢谷友介様。

【伊勢谷友介様】 皆様、よろしくお願いいたします。伊勢谷友介です。俳優であり、リバースプロジェクトの代表をやらせていただいております。

僕は、この会を続けていくということで、このエシカルエコノミーというものを提案させていただきたいなと思っていました。日本語にすると倫理的な経済モデルというふうになるのですが、僕らが住んでいるこの東京というのは、経済規模、財政規模ともに1つの国と変わらないほどの巨大な都市となっているというところで、例えばこういう都市が先日、高校の授業料の無償化、これを提案されているということで、そういった教育の機会の均等、このことに対してお金がきちんと使われること、これというのは1つの倫理的な経済モデルの1つの形なのではないかと思っています。

なので、ここにいる皆様と、それにも負けないいいアイデアをどんどんこの会を出して、なおかつそれが今、知事のプレゼンテーションにあったように、まさかと思えるような想像しない未来をつくるきっかけになればというふうに期待しております。本日はどうぞ皆さん、よろしくお願いいたします。

【潮田次長】 ありがとうございました。

続きまして、写真家、映画監督、蛭川実花様。

【蛭川実花様】 こんにちは。蛭川実花です。幾つかのこういった会議に何かご縁があって呼んでいただいていることがあるんですけども、今回すごく本当に実行力がありそうな、とても若い方たちが多くて。いつも一番年下なんですけれども、本当に上の方なので、私もすごくワクワクしています。本当にふだんから興味があってお会いしたかったなという方がいらっしゃったりとか、よくお仕事させてもらう方がいたりとか、本当におもしろいアイデアが実際に出てきて、そして、実行できそうだなという感じを今ものすごく体感しているので、とても楽しみにしています。よろしくお願いいたします。

【潮田次長】 ありがとうございます。

続きまして、渋谷区長、長谷部健様。

【長谷部健様】 皆様、こんにちは。渋谷区長の長谷部健です。区長という立場ではあ

るんですが、是非若い人たちと、僕もこの中に来ると年長の方に入るんですが、色々なことを含めて未来について語り合えたらと思っています。

区長に就任して今1年と9カ月ぐらいなんですけれども、就任してすぐに1年ぐらいかけて渋谷区の基本構想を、20年先のビジョンをつくろうということで1年間やってきました。なので、この渋谷区のビジョンが東京のビジョンとも重なるところがあると思いますし、あと、今まで政治家やる前はNPO活動をしていたりしていました。そういった社会起業家に対しても、もっとアプローチしたいという思いもあります。是非この東京がもっと世界の中で輝く都市になってほしいし、渋谷区の方では、就任以来、ロンドン、パリ、ニューヨーク、渋谷区と、そういったまちづくりをしたいというふうに大風呂敷も広がっています。是非そことも重なるといいなと思ってやって参りました。とにかく皆さんとのディスカッションを楽しみにしています。よろしくお願いします。

【潮田次長】 ありがとうございます。

続きまして、メディアアーティスト、筑波大学助教、落合陽一様。

【落合陽一様】 こんにちは。落合です。メディアアーティストをしています。僕は、メディアアーティストってすごく聞き慣れない職業ですけども、メディア装置をつくることで表現するということをしています。メディア装置というと、例えばテレビとか電話とか様々なものがあると思うんですけども、それを工学的に発明するところから芸術活動をしているようなタイプです。

僕、20世紀というのはテレビの時代だったと思っています。だけど、21世紀というのはコンピューターの時代だと考えています。つまり、テレビ型の社会というのは、1人が発信すると全員が同じメッセージを受け取るという社会だったのが、そうではなくて、双方向通信でお互いに違うことを考える。そして、あらゆる通信はテクノロジーによってサポートされている。例えば人工知能の発達やバーチャルリアリティの発達、IoTの発達によって、我々の人間性自体が今後変わろうとしている。その中でどのような表現が文化的に可能なのか、もしくはそういうような表現とどう社会が向き合っていくのかというのを考えています。

一応大学の教員でして、これでも博士号を持っていたりするんですけども、東京大学を出て、今、筑波大学で自分の研究室をやっています。そのほかには、ハードウェアスタートアップのベンチャーをやっていて、そういうような、種をつくって、それを産業にして、それを表現につなげるという3つの活動をしています。よろしくお願いします。

【潮田次長】 ありがとうございます。

続きまして、介護福祉漫談家、特定非営利活動法人笑顔工場理事長のメイミ様。

【メイミ様】 漫談家であり、介護福祉士でもあります、介護福祉漫談家のメイミと申します。どうぞよろしくお願いいたします。NPO法人笑顔工場の代表を務めております。

少し自己紹介をさせていただきたいと思います。ふだんは、介護職の経験をもとにいたしまして各地で講演をさせていただいたりだとか、あとはNPOの活動といたしましては、介護施設、高齢者の施設だとか障害者の施設を訪れて皆様に笑いをお届けしています。また、港区で手話通訳者としても活動しておりまして、そんなわけで障害者福祉とも関わりがございます。

ふだんは浅草東洋館などの寄席の舞台に出ております寄席芸人でして、笑いを通じて皆様に介護の今をお届けしているわけなんですけれども、小池知事、是非今度東洋館に足をお運びください。ご招待いたします。

【小池知事】 ありがとうございます。

【メイミ様】 おひねり大歓迎です。

そんなわけで、皆様と一緒に、高齢者、そして、障害者の方もみんな楽しく笑って過ごせるような明るい東京の未来について語り合えたらいいなと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

【潮田次長】 ありがとうございます。

続きまして、森永製菓健康事業本部マーケティンググループ、国際フェンシング連盟理事、太田雄貴様。

【太田雄貴様】 皆さん、こんにちは。森永製菓の太田です。私はずっとフェンシングをやってきて、22年間というフェンシングのキャリアに幕を下ろしまして、今、国際連盟の理事の一員として活動しております。僕自身がなぜ国際連盟の理事になったかという、国際舞台で物を言える日本人があまりにも少ないなという危機感が昔からありまして、ルールはやっぱり守るものでもあるけれども、ルールはつくっていくものだという危機感の中、国際連盟の理事をやっています。

スポーツという分野、2020年に大きいイベントも待っていますので、より良い成功に向けて、日本が世界の中心に、世界の注目を浴びる瞬間だと思うので、皆さんも是非より良い大会になるように協力していけたらいいなと思っています。今後ともよろしくお願いいたします。

【潮田次長】 ありがとうございます。

続きまして、高校生内閣のメンバーであります、飯野桜子様、浜田愛音様、千島洸太様でございます。

【飯野桜子様】 皆さん、初めまして。高校生内閣と申します。私、高校生内閣総理大臣を務めさせていただいております、飯野桜子と申します。後ろにいますのが、官房長官と副官房長官となります。私自身、高校2年生、後ろの二人は高校1年生です。今回私たち高校生内閣が一体何をしているかということもプレゼンテーションでお伝えしながら、私たちの志とか夢、今後の東京に対するビジョン等を若者の立場から、皆さんも若者ではありませんけれども、今回は最年少ということで、高校生ならではの意見をお伝えできればと思っております。本日はよろしく願いいたします。

【潮田次長】 ありがとうございます。

続きまして、タレントのパックン、パトリック・ハーラン様でございます。

【パックン（パトリック・ハーラン）様】 皆様、こんにちは。パックンこと、パトリック・ハーランです。僕も若者です。さっき（長谷部）区長とお話ししましたが、都知事を除けば、僕が最年長なんです。46歳なんですけれども、日本に来て23年なので、日本人としてピチピチの23歳だと思ってください。そして、東京に骨を埋めることになっていますので、本当にこの会議では僕の将来も決めることになります。

僕は何ができるかといいますと、東工大（東京工業大学）でコミュニケーションを教えております。20年以上東京に住んで、その魅力は僕は気づいているけれども、世界に発信するこの作業にどうにか僕も役に立つことができたらと思います。あと、こう見えてもアメリカ人です。ですから、アメリカ人の感覚で見た東京、その魅力と課題を伝えることができれば幸いです。さらに、都知事がどうやら横文字大好きなようで、皆さんに分からない言葉があったら、いつでも訳しますので、言ってください。本日はどうぞよろしく願いします。

【潮田次長】 ありがとうございます。

続きまして、早稲田大学大学院先進理工学研究科生命医科学専攻修士1年、東京女子医科大学先端生命医科学研究所研究生の宿輪理紗様。

【宿輪理紗様】 早稲田大学大学院修士1年の宿輪理紗と申します。私は東京生まれ・東京育ちの23歳です。早稲田の学部から入っておりまして、理工学部で生物を学んだ後に、2年前から早稲田と東京女子医科大学の連携研究所で再生医療の研究を行っております。

理工学と医学という異なる分野が混ざっている、そういう連携研究所で実際に研究している身として、そういう連携させること、異なる分野を融合させることの重要性は、2年目ではありますが多少分かっているつもりでございますので、そのような立場から何か言えたらいいなと思います。また、この中では唯一の大学生で理系で女子ということで、そういうことから素直に発言できたらなと思います。どうぞよろしく願いいたします。

【潮田次長】 ありがとうございます。

続きまして、三宅島漁業協同組合漁業研修生、西田圭志様。

【西田圭志様】 三宅島漁業協同組合漁業研修生の西田圭志と申します。三宅島では、漁業者の後継者を増やそうということで、漁業をやりたい若者に漁業を教えるという研修をやっていて、僕は東京大学で魚の水産資源学や魚の生態を研究して、漁師になりたいと思ひ、この研修に参加しました。今は漁師として独立するために日々勉強しています。こういう研修に参加する立場として、また伊豆諸島の住民の1人として発言できたらなと思います。よろしく願いします。

【潮田次長】 ありがとうございます。

続きまして、アテネ・北京・ロンドンパラリンピック射撃日本代表、一般社団法人日本パラリンピアンズ協会理事、日本郵船株式会社人事グループ社会貢献推進チーム、田口亜希様。

【田口亜希様】 ありがとうございます。田口亜希です。どうぞよろしく願いいたします。私は今回この会のお話を伺いまして、この本（都民ファーストでつくる「新しい東京」～2020年に向けた実行プラン）もいただきまして読ませていただいて、色々なところに当てはまるのかなと思う中で、やっぱりパラリンピアンということでは、共生社会というところ、バリアフリーだけでなく、みんなが本当に共に生きていく。どうしても共生社会と言われると、障害者が健常者に助けをもらうというイメージが多いと思うんですけども、そうではなくて、お互いが助け合えるようなそういう社会をつくっていくということが、東京から発信、東京で2020年パラリンピックが開催されますので、レガシーとなっていければいいかなと思っています。

今、私、車椅子に乗っているんですけども、私は25歳のときまでは普通に歩いていまして、脊髄の病気で車椅子に乗るようになりました。ですので、どちらかという、健常者も経験していますし、障害者も経験しております。出身は大阪で10年ほど前にこっちに出てきましたので、地方からこっちという、東京を見る目というのもありますし、色々な

目でそういう東京のすばらしいところとか進んでいるところ、東京だからこそできることというのが分かると思いますので、そういうので皆様と色々な議論をできたらいいなと思います。どうぞよろしく願いいたします。

【潮田次長】 ありがとうございます。

続きまして、株式会社東京チェンソーズ代表取締役、青木亮輔様。

【青木亮輔様】 初めまして。本日は東京の檜原村から参りました。檜原村は2,300人という人口です。東京チェンソーズの青木と申します。

私は林業という仕事をやっています。林業って何やっているんだろうと思うと思うんですけども、簡単に言うときこりです。木を植えて、木を育てて、育った木を伐採して山から切り出して、先日は杉並区の保育園の内装材として届けたりとか、そういった仕事全般をやっています。林業のほかに、そういった木材生産というのはなかなか今、厳しい状況なんですけれども、森林の空間を生かして、子供たちを例えば山に呼んできて色々なイベントをやったりとか、今度は森の恵みを車に詰め込んで街に届けるようなそういった仕事をやっていこうとか、新しい林業の形、森林の利用について色々取り組んでおります。

今回は東京の未来ということで、東京は36%が森林なんです。そういった中では、この36%の森林を未来にどうやって生かしていくかというのはとても大きな課題だと思います。そういったところで何か皆さんのお知恵も拝借しながら前に進んでいければいいなと思います。本日はよろしく願いします。

【潮田次長】 ありがとうございます。

続きまして、弁護士、松澤香様。

【松澤香様】 皆さん、こんにちは。弁護士をしております松澤香と申します。

私は、企業法務のお仕事をメインのお仕事としておりますが、国会に設置された原発の事故調査委員会の調査課長や、GPIF、皆様の年金をお預かりして管理・運用している独立行政法人のガバナンス担当参与として公的機関のガバナンス改革に携わってまいりました。また、1児の母でもありますので、やはり女性の育児と仕事の両立、キャリア形成や、それから、留学経験を通じて女性のリーダーシップにも大変関心を抱いております。

実は私が弁護士になったのは、10歳のときにサスペンス劇場ドラマを見て、正義の味方になりたいと思って弁護士になったということがございまして、やはり夢を持つということは非常に重要なことだというふうに感じております。ですから、この議論を通じて、東京都の皆様が未来に対して希望や夢を持てるようなそんなディスカッションをできたらと

思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

【潮田次長】 ありがとうございます。

続きまして、建築家、田根剛様。

【田根剛様】 こんにちは。建築家の田根剛と申します。今、フランスのパリを拠点に建築家として活動しております。ちょうど10年ほどかかったエストニアというバルト三国の1国のナショナルミュージアムがちょうど昨年10月にオープンして、大きな仕事が1つ終わりました。もう1つは、非常に話題になっていた国立競技場の国際コンペにファイナルまで残った古墳スタジアムというものを提案した、緑の山のようなあのデザインを提案したので、少し日本での仕事が始まりました。

今日はこうした会に呼んでいただいて、新しい東京や未来の東京というお話が本当にこういう同世代や親しい方々と語れる活動を楽しみにして来ました。同時に、未来について考えたときに、今まで未来というとなんかものを探してそれを形にしていこうというのがあったんですけども、もしかしたら、今あるものとか今日の前にあるもの、そうしたものの未来を考えていくことというのもすごく大事じゃないかなということが自分の中でちょっと浮かんだので、そうしたことも話し合えたらと思っております。よろしくお願いいたします。

【潮田次長】 ありがとうございます。

最後に、歌手、タレントの高橋みなみ様。

【高橋みなみ様】 皆さん、こんにちは。高橋みなみです。よろしくお願いいたします。私は先日、TOKYO FM『高橋みなみの「これから、何する？」』という番組の中で小池さんにインタビューという形でお会いさせていただきまして、「高橋さん、ビジョン懇談会あるんだけど、いらっしゃらない？」というふうに言われて、ビジョ会？ という、本当に美女が集まる会なのかなとすら思ったんですけども、東京の未来を語る会ということでこうして参加させていただけてとてもうれしいです。本当に東京オリンピック・パラリンピックの開催、気づけばもう3年後というふうに迫っていて、未来の東京というふうに考えるとすごく先のように感じてしまいますけれども、きっとあつという間に来るのかなと思っております。

今日は本当に様々な職業に就かれている方、経験されている方が集まっているということで、私の視線は何なんだろうというふうに考えたときに、やはり東京がエンターテインメントの発信の場所でありたいという気持ち、そして、今日はリスナーさんの意見も持つ

できました。あわせてご紹介させていただきたいと思いますが、やはり育児の中で公園が少なくなってきたという意見だったり、色々な意見があります。この会がどういうふうになるのか私自身も楽しみです。どうぞよろしくお願いいたします。

【潮田次長】 皆様、ありがとうございました。

なお、本日は、ピアニスト、東京音楽大学専任講師、株式会社演代表取締役、菊地裕介様、お笑いタレントのくわばたりえ様、東京外国語大学特任助教のモハメド・オマル・アブディン様は、所用のためご欠席でございます。

それでは、報道機関の皆様はこれにてご退室をお願いいたします。

【小池知事】 もう今の自己紹介だけでももうすごく刺激的で、私も楽しく拝聴させていただきました。ごめんなさいね、皆さんの平均年齢を一気に上げてしまっていますけれども、気にせず、ばんばん言いたいこと、こうしたらいい、ああしたらいいということを是非発言してください。

本当に色々な分野の方々お集まりいただいて、東大卒漁師から、それから、木を切って、檜原村も私伺いました。色々なところでお知り合いになるチャンスをいただいた方やご紹介いただいた方、様々です。どうぞ本当に自由に発言していただきたいと思っています。

今日は、プレゼンテーションは伊勢谷さんと、それから、飯野桜子さんですね。

【潮田次長】 それでは、本日の懇談会は、まず伊勢谷様と高校生内閣の皆様はプレゼンテーションをしていただきます。その後、東京の未来や東京の可能性などについて、メンバーの皆様全員での意見交換を行いまして、おおむね18時頃の終了を予定しております。

それでは早速、プレゼンテーションに移らせていただきます。最初に、伊勢谷様、よろしいでしょうか。それでは、よろしくどうぞお願いいたします。

【伊勢谷友介様】 僕がまず皆さんに、先ほどご挨拶のときも提案させていただいたこの言葉なんですけれども、エシカルエコノミー、このことを提案させていただきたいと思います。直訳すると倫理的な経済となっていて、もし聞き覚えがある方がいらっしゃるようであれば、もしかしたらエシカルファッションとかという言葉で聞いたことがあるかと思えます。

とはいっても、何のことかいまいち分からない感じだと思います。本当に訳すと、僕の訳詞ですけれども、社会の継続可能性のための道義的なお金の循環の仕方、と僕は考えているんですけれども、僕の活動を絡めてお見せすることで少しご理解いただけるのかなと

思いまして、僕の活動を紹介させていただきたいと思っております。

僕のリバースプロジェクトとは、人類が地球に生き残るために活動しております。リバースプロジェクトは、衣・食・住という3つの領域で、未来に継続可能な社会を構築することを目指して活動しております。僕が27歳のときに、宇宙人の目線で地球を見てみたんです。そしたら、僕ら人類全体の消費というのは、もう地球の生産を超えて消費してしまっている。言うなれば、自分たちの次の存続を自分たちで閉じていっているという生物だったということに、気づいたんです。これは大変なことだ、同時に、だせーこの人間というのが僕のまず最初の印象です。

それをまずどうやって変えるかなというふうに考えたときに、我々人類の全体の消費が個人の消費の積み重ねによるものとも考えられる。であれば、我々が未来に負担の少ない消費の選択を提唱するということを始めました。衣食住に関するプロダクトの提案ですね。それで、こんな消費はどうだい？ ということで消費活動を提案させていただいて、それこそが、小さい規模ではありましたが、エシカルエコノミーの一例として皆さんに紹介できるものではないのかなと思っております。

ちょっと少ないんですけども、我が社のサンプルを用意させていただいたので、少しお見せしたいなと思っております。本当に僕が使っているバッグなんですけれども、これは衣の分野（のプロダクト）で、この素材は廃材であるエアバッグです。それを利用したバッグです。ついでに、今日僕着ているものも全部エシカル素材で、全部オーガニックコットンですね。そういうものを販売させていただきました。

そして、ほかにも全日本制服委員会というものを立ち上げております。制服というのはたくさんの人々が着ているものですが、(個人で選ぶことが出来ないの)でこれが変わることによって衣服の変化、衣服がたどり着ける1つのエシカルエコノミーを提案できるんじゃないかと思っております。(全日本制服委員会は)素材とリサイクルシステムを構築することと、あと同時にデザイン性の富んだ制服をつくることを頑張っています。

そして、食の分野としては、今日ちょっと持ってきたんですけども、皆さんのテーブルに、少し見ていただければいいんですけども、今日、これ、大田市場からかな、持ってきたものなんですけれども、まだまだ本当に食べられるものなんです。ちょっと曲がっていたり形が悪かったりするものなんですけれども、実際にはもちろんこれって本当は全然食べられるし、むしろキュウリでいえば曲がっている方が栄養価が高いにもかかわらず捨てられてしまう。ということで、こちらをイベントなど様々な方法で市場に戻すスキ-

ムを構築して、廃棄食材を減らす努力をしています。

それから、住の分野ではパネルを用意しました。静岡の商業施設に子供の遊具部屋を間伐材を用いてつくらせていただきました。子供ががちゃがちゃ思い切り遊ぶので少し壊れたりするので、直しに行かなきゃいけないんですけども、すごい木の香りが充満した部屋ですごく気持ちのいい部屋になっております。

というのが僕が会社で運動を重ねている1つのエシカルエコノミーの例なんですけれども、ここから1つ、僕らの提言といいますか、提案を言えたらなと思っております。

提言1です。まず東京五輪を世界へ大きく発信します。東京の未来を語るときに、来る東京オリンピックを無視しては語れないんじゃないかなと思っております。ということで、2020年におけるこの一大行事に対する提案から始めたいと思っております。日本が世界の祭典で世界の中心になること、ときですので、せっかくなら世界からすごいね日本と思われのような、歴史に残るようなオリンピックにしたい。そういうふうを考えて、今この時代に何を残すべきなのか、それを考えました。

このオリンピック、皆さん何を目的にしているのかご存じですか？ もちろんオリンピック選手である方々はもうしっかり存じ上げてらっしゃると思いますが、僕がちょっとウェブサイト調べたんです。tokyo2020.jpなんですけれども、そちらにはこう書いてありました。「スポーツを通じた人間育成と世界平和を究極の目的にする」とありました。僕としてはすばらしい目的だなというふうに思ったところで、この目的の達成のために考えた3つのアイデア、これを提案させていただきたいと思っております。

もう表に皆さん見ていただいているんですけども、1つ目、いまだに地上放送だけが放送権を独占する時代であるべきではないんじゃないかなと僕は思っています。だからこそ、皆さんが普通にスマホで撮って、ネットで動画を共有して、放映権の一部を市民へ公開できる21世紀型の配信を提案したいなと思っております。それこそスマートフォンで撮影するのは当たり前です。会場で見えていた映像や写真をインターネット上のある特定のサイトに、特定の場所に送信すると、GPS、GPSはGlobal Positioning Systemですよ。場所と時間によって自動的に編集されるシステムを構築して、まるで自分も会場にいてオリンピックを楽しめるような、そんな目線のオリンピックがあってもいいんじゃないかなと思っております。テレビと違った、新しいオリンピックの楽しみ方なんじゃないかなと思っております。

2つ目です。オリンピックには、多くの国から多くの選手、そして、多くのお客さんが

訪れます。私たち一般人も海外の方々と友達になる機会もたくさんあると思います。そこで提案したいのが、仲良くなったら、ハイタッチで世界中の個人がつながるガジェットの開発、そして、それによってつくられる平和の見える化を提案したいなと思っております。

これ、ある会社さんが開発したガジェットだったんですけども、バイクのツーリングをしていると、途中すれ違う人と挨拶するんです。「ハイ！」って。そのときに「ハイ！」で情報交換できたらいいよねというアイデアが、これがハイタッチになったんですけども、ハイタッチをしたときに、あらかじめ自分で入力しておいた、例えば自分の写真だったり、メールアドレスなどの情報を交換できる。そして、個人が政治的な関係を超えて世界中の多くの人々と友情を結ぶこと、このことをより簡単にさせることができる。

そのつながった人たちを地図上で赤い線で結んで、最終的に、ちょっと（ページを）先に進ませていただきますが、これ、例えばなんですけども、このようなグラフィックに落とし込めたら、東京オリンピックの平和の見える化になるのではないかなと思います。友達が住んでいる所に、じゃあ、攻め入ろうというふうに思わせない。つまりは、武力による抑止力というのが平和の今、形になっているような感じがありますけれども、そこからもう脱却したい。この東京オリンピックは友達の輪による平和をつくっていきける、そんな、作品に近いわけですけども、グラフィックで見せていくことができるんじゃないかなと思っております。

そして、まだまだオリンピックです。3つ目です。3つ目は、新しいオリンピックを体現するアイデアだと思っています。僕が本当は何よりも実現したかったアイデアなんですけれども、もしかしたら皆さんも一度は考えられているかもしれません。僕は、本来なら、パラリンピックから始まるオリンピックで、最後まで注目度の高い大会を目指したらいいんじゃないかなと思っています。これまでどおりなら、オリンピックから始まり、閉会式があり、終わったときにはパラリンピックの注目度はかなり落ちてしまうというのは、これまでのどうしようもない事実だと僕は思います。なので、人類がこれから多様性を持つこと、このことが我々のサステナビリティにつながる、これは当然のことだと思っています。であれば、パラリンピックから始まることで、まさに多様性を感じさせる大会になっていったらいいんじゃないかなと思っています。

そしてなおかつ、できたら、オリンピックとパラリンピックで開会式、閉会式が今、2回ずつあるんですね。これを1回ずつにしたらどうかと。おそらく滞在期間がそんな長くいられないので、出席者は前後で変わってくると思うんですけども、開会式はパラリン

ピックから始まるのでパラリンピック選手が中心になった開会式、閉会式はオリンピック選手が主な出席者になるような閉会式、これをやれば、大分予算も小さく、そして、もっと大きい規模でやっても面白くなるんじゃないのかなというふうに考えました。

ポイントにも書きましたけれども、実は東京は2度目のパラリンピックを経験する初めての都市らしいんです。なので、そういう都市だからこそ、平和と多様性を象徴するような新しいオリンピックをやるには、こういう画期的な形が出来たら本当は良かったんじゃないのかなと思っています。本当は、本当はと言っているのは、ちょっと難しそうだけどというのは少しあるんです。何かこれ、IOCさんが絡んでいるので、もうオリンピックが決まった時点で決まっているところでもあるらしいんです。でも、何かあえてこれは言わなきゃいかんだろうというところで言わせていただきました。

続いて、提言2に参ります。私の提言2は、食についての提案になります。皆さんご存じでしょうか。日本の食品ロス是世界トップクラスなんです。廃棄食材を活用する新たなモデルを開発すべきではないかと思っております。日本で廃棄される食材の量は、製品になるときもそうですし、生産するときも合わせると、全体の3分の1を捨てています。これはもう世界中の飢餓を救えるほどの量だそうです。もう驚く量ですよ。これも先ほどフランスになったらいいんじゃないかと。もう既にある実例があるんです。フランスからいらっしゃった建築家の方がまねしてもいいんじゃないかとおっしゃっていて、僕もまさにそう思うんです。フランスにならって新たなルールをつくることにより、小売店での食料廃棄率を減少させる案を提案したいと思います。

既にフランスでは、スーパーマーケットから出る食料廃棄は法律で禁止されているらしいんです。ホームレス援助団体など特定の団体と契約を結んで寄附するか、肥料などに活用することが義務付けられています。現在の日本の小売店では消費期限前に破棄されることも多いので、日本もこんなルールを活用すれば、未来の食糧不足など当面は弱者を支える重要な資源になっていくんじゃないかと思っております。ちなみに、フランスの例では、スーパーとかも、産業廃棄物処理のお金を払わなくていいんですね。ということで、結果的に輸送料のみになると。それが結果的に経済的にもいい結果をもたらしているということなので、これ、もう今すぐやってもいいんじゃないのかなと思う実例になります。

そして、食品ロスに対する提案は最後になりますが、スーパーでは売れない形の悪い食品を企業の社食、ランチデリバリーなどで活用したい。大田市場を有する東京都の取組として開始して、販売利益を財源にした社会活動の充実化を計画していきたいということ

す。これはもうそのままなんですけれども、本当に曲がっている方がおいしいと言う有名な料理研究家の方もいらっしゃいますので、これはまさに使って、なおかつその財源をい
い形で使っていくということも考えられるんじゃないかなと思っております。

提言3に参ります。次は住環境における提案です。先ほどのお話にもありましたように
東京都にも島しょ部がありまして、やっぱりそこももう既に過疎化が進んでいるんですね。
もちろん奥多摩も進んでいらっしゃるということだと思います。これを解決する新たなコ
ンセプトが僕は必要だと考えています。そこで、島しょ部のエコアイランド構想を提案し
たいと思っております。今の現状ではコミュニティの維持が難しくなってくる。高齢化も、
人口が少なくなってくることも手伝って、かなり難しくなってくると。であれば、現在も
残る、自然に囲まれたこの環境、これをそういう利点に加えて、新たな魅力として、未来
の生き方を実行している場所、この価値を創造できるんじゃないかなと思っています。

では、なぜ僕が島しょ部なのか。それは島という隔離した環境を逆手にとって、経済状
況、自給率を明確に把握できる場であることも大きいと考えています。というのも、島で
あることが、島内に住む人間の生活に必要な衣食住の生活物品の自給率、そして、水やエ
ネルギーの自給率がすぐ明確に分かりやすいんですね。リバースプロジェクトも今、(鹿児
島県の)沖永良部島で活動していますが、高校生を社長にし(た会社を設立し)て、もう
島変えたらうぜみみたいなことをちょっと考えています。そういうところからもちょっとア
イデアが出てきました。

それから、島しょ部で実行するのは、もう1つ大事な理由があると思います。人間の未
来の生き方を実現する分かりやすい事例を実行しやすいのではないかな。なぜなら、ポイン
トにも書いてありますが、東京都という経済的にとても強いサポートを持つ島しょ部であ
れば、自立する地域の生き方、つまり、地域にもあります過疎化した地域の復活例、これ
を早いことつくって、これをまた地域に対して還元できる、そういうふうな形ができやす
いんじゃないのかなと思っています。

ここで掲げた人間の未来の生き方とは、衣食住、水、エネルギーなどの生活の基盤はロ
ーカルで賄うことができることです。そして、技術のある者はどこにいても働き方を選択
できる時代になりつつあります。つまり、エコアイランドで生活をするということは、生
きることにお金がかからない条件を創造して、同時に島にいながらもお金を稼ぐことが
できる条件を持つ生き方を提案できると思っています。僕の気に入っている言い方なんです
けれども、ご飯やエネルギーは自然からいただきまして、でも、トイレにはウォシュレッ

トがついている、これが僕の理想とするエコアイランド計画です。余計離れちゃいましたね。大丈夫ですか。

次、提案4に行きます。これは都市部における住の提案です。都市は、建物の集合体、建物が変われば都市が変わると考えます。なので、エコビルで環境先進都市へ。新築及び既存の商業ビルに対して、エネルギー自給、緑化、水の循環などの向上を目指します。それで何をするかというと、大型の建物には環境適応基準を新たに設けて、非達成率に応じて増税を行っていくと。達成したから減税というのが今までの考え方なんですけれども、達成していないので増税するんですね。そういうことによって、達成する率を上げていきたい。

そしてなおかつ、増税で得られた財源を、空き家対策、コミュニティ再生事業に活用する。今、東京都も実は空室があまりにも多いというふうな状況があります。例えば（廃墟になっている場合）、そういう建物を壊してしまっ、そして、その空いた土地、それに地域の子供の遊び場であったり、太陽に当たれる場所、それと、子供たちからすると、バクテリアに触れる場所ですよ。そういうところをちゃんとつくってあげるために、その維持費としてその財源を充てていったらどうなんだろうかというふうに思っています。結局その地域の環境が良くなれば、土地の価値も上がってくるというふうなことも考えられるんじゃないのかなと思っています。

次です。提言5、衣に対する提案です。これ、最後になります。企業・団体の制服のエシカル化、ファッション性の向上を目指す。原料、素材、製造現場、物流、全てをエシカル化します。昨今の制服の選び方の主な理由は、安いのが最もプライオリティが高いんですね。結果、環境に適応している素材だったり、製造方法、リサイクル性能だったりとかは二の次になっています。

しかし、僕が思うに、制服はその団体の社会的な態度として捉えられるものであって、制服がエシカルであること、これは未来に対する大切な意思表示であると考えています。現在は（衣料の値段が高いことが）目の前の経済的なリスク、高いだのとかということがリスクとして見られがちですが、安い衣料は安い労働力によってかなえられているという状況があります。生産国に過酷な労働環境をつくることにつながっていると。こういうことがあるのであれば、これを無視して安さを価値にしてはいけないんじゃないかなと考えております。

そして、格好悪い制服、これは（好んで）着たいものではないので、現場で着る人のモ

チベーションにもつながりにくくなっています。なので、アイコンとなるデザイナーを起用し、これが着たいと思える制服をつくり、働く人たちのモチベーションと企業・組織へのロイヤルティを向上させたいと考えています。こだわった制服をまとふことは、企業や団体の顔になるところであり、そのデザイン性は、機能だけでなく、格好いいことで団体へのプライド、そして、団体のブランド力を持つことにもつながると考えております。

長くかかりましたが、以上が僕の提案となっております。ご清聴ありがとうございました。

【小池知事】 ありがとうございました。最初のプレゼンターとして伊勢谷さん、ありがとうございました。ごめんね、途中で急がしちゃいましたけれども。何かの公約にそのまま使えそうな政策ばかりだったですけれどもね。

【伊勢谷友介様】 ありがとうございます。

【小池知事】 本当にありがとうございます。ちなみに、私、昔行っていたマッサージの場所がリバーズというところだったんだけど、これは新しく生まれるという方のリバーズですよ。

【伊勢谷友介様】 そうですね。

【小池知事】 ということで、伊勢谷さんは本当に、藝大（東京藝術大学）出身でいらっしゃるって、アーティストで、そして、俳優で、どんな役なさっている？ たくさんやられたですよ。

【伊勢谷友介様】 そうですね、なぜか外見上、悪いやつが多いとか、策略者が多いですね。

【小池知事】 策略者が多い？

【伊勢谷友介様】 はい。

【小池知事】 でも、私はもう本当にびっくりしたんですけれども、とても具体的に社会のリバーズをやってらっしゃるということで大変感動いたしまして、メンバーに入らせていただきました。ありがとうございます。

さあ、それでは、続いては、高校生内閣、飯野桜子さんにプレゼンテーションをお願いしたいと思います。これ、私が色々なこと言うよりは、早速、桜子さん、プレゼンテーションしていただきましょうか。よろしくをお願いします。

【飯野桜子様】 Hello, everyone. 初めまして、高校生内閣です。本日は私、高校生内閣総理大臣の飯野桜子と、

【浜田愛音様】 高校生内閣官房長官の浜田愛音で、

【飯野桜子様】 一体、高校生内閣とは何なのかということについてお伝えしたいと思っています。まずは、この貴重な場を設けてくださった都の職員の方々にお礼を申し上げたいと思います。ありがとうございます。

だけど、この都庁という貴重な場を設けていただいて、私どもも正直、頭が真っ白だよ。というのも、緊張ということもあるんですが、今回あえて原稿をつくらずにこの場に立つことを決めました。なぜならば、私たちがあえて原稿をつくらないことで、型にはまらず、私たちの本音を皆様にお届けできるかとそのように考え、私たちの本当に心の中から湧き出る志だったり夢を皆様にそのままお伝えしたい、そのように思いまして、今回原稿をつくらずに挑ませていただきます。というわけで、今回多少言葉の誤りとかがございますが、そこは温かく見守っていただいて、私たちの志を、マイクの角度にも気をつけて行っていきたいと思います。よろしく願いいたします。

というわけで、まずこのグラフを皆さんにご覧いただきたいと思います。こちら、平成26年に実施された、内閣府による若者に対する意識調査の結果です。将来への希望とありますが、「あなたは自分の将来について明るい希望を持っていますか」との問いに対しイエスと答えた若者はわずか50%と、各国の中で見ても非常に少ない、そのような結果となりました。

【浜田愛音様】 とある統計によりますと、将来への希望を抱いている、自分が将来への不安を抱いているよりも、国の不安というのが大きいという統計が出ておりまして、若者も日本に対してとても心配だという意見が出ております。

【飯野桜子様】 その若者が、今、日本に対しての不安が非常に大きいという統計が出たんですけれども、実際今後の日本どうなっていくのか。この懇談会の主題でもありますが、そのビジョン、実際の状況というところをお伝えしたいと思います。

こちらのグラフにありますように、2050年の人口ピラミッドとなりますが、まさに逆三角形で、総人口は1億人割れをし、超高齢化社会と呼ばれる、現在の少子高齢化がより深刻化した、そのような社会に突入していきます。現在の年金制度でいくと、1人の若者が1人のお年寄りを支えていく、そのような社会になっていくわけです。つまり、30年後の日本を担う、つまり、社会を背負っていく若者たちというのは、今後私たちが、今の高校生だったり学生たちが担っていくという役割になっていくわけですが、実際のところ、

【浜田愛音様】 この社会、現状を変えられる希望を持っている若者というのは非常に

少なくとも、私たち自身、ある夢がありまして、その夢が、この現状を変えたい、そんな強い思いがありまして、この夢に向かって頑張っていきたいと思い、私たちは立ち上がったわけです。

【飯野桜子様】 この統計では、若者は現在、社会の現状を変えられるという希望さえもないということが見受けられるんですが、私たちは、それだとしても、もしこの日本に今後の社会を変えられる希望がないとしても、私たちには夢があるから、本当にこの現状を打開したい、困っている人たちを救いたい、そのような夢があるから、その希望を自ら見出していこうと。まずは高校生であろうと、どんなに未熟であろうと、実践をすれば必ず夢はかなえられるんじゃないか、そのように思って、昨年夏より動き始めました。私たちは、私たちから日本を変えたい、その志1つでこの飯野と浜田で今回高校生内閣というものをつくりまして、今後その団体を通じ活動していきたいと思っております。

では、どのように私たちが日本を変えていこうと考えているのかということ、これから3つのステップに分けてお伝えしたいと思います。

その1、同世代の意識改革とあります。つまり、現在、日本の若者の意識は非常に様々な面において低いとの統計が様々な機関からも出ていますけれども、その意識を改革しよう。今までは大人の方々からの一方的なアプローチというものが多かったわけですが、今回私たち高校生から、つまり、同世代からのアプローチが増えることによって、より様々な角度から、またより多くの刺激を与えていくことができる。それによって意識改革がより推進されるのではないかと、そのように考えました。

その2、若者の政治参加とあります。まずこちらのグラフをご覧くださいますと、こちらは、若者の関心で、15歳から23歳を対象として、「今あなたは何に関心がありますか」とのアンケートを行ったところ、第1位のお金が過半数を超えているのに対し、この赤い部分の政治という部分に関しては1割を下回るという極めて低い結果となりました。私たちが望む政治参加というのは、政治に自ら加わっていく、そのような政治参加ではなくて、政治に対して関心を持ったりだとか、この国をどう変えていこう、現在のこの国が抱える問題を自らその原因を究明して解決策を練っていったりだとか、また、今後日本をより良くするためにはどのように自分たちが行動していけばいいのか、そのことが必然的に政治につながるのではないかと考えたため、若者の政治参加という部分が最終的に社会を変革するという、そのゴールにつながるのではないかと考えました。

ステップ3として、自己創造を挙げさせていただきます。私たちは、社会を変えるとい

う、その以前に、まずは自分を変えてこそ社会を変えていくことができるのではないかと。特に10代は、脳がやわらかく、自分をつくるのに一番最適な時期だとも言われております。ですから、このときに自分たちの志を明確に持って、それに向かって自ら切磋琢磨しつづけていくことによって、いずれ社会を変えていくことができるのではないかとそのように考え、このようなステップ3とさせていただきます。

【浜田愛音様】 続いては、組織構成図です。こちらをご覧ください。現在、内閣は議院内閣制に則ってつくっているんですけども、省としては、外務省、総務省、文部科学省、そして、こちらに学生救済省という新しい省を設けまして、これは総理大臣の飯野桜子さんが代表、大臣を。

【飯野桜子様】 私が大臣を務めておりまして、実際どのようなことを行うのかといいますと、現在問題になっている、子供、若者の自殺とか、いじめ、貧困、また最近話題になっているJKビジネスとか、そういう問題に積極的に踏み込んで、また政策立案等を行っていきたいと考えております。また、この紫の部分に注目していただくと、内閣最高顧問とございます。本日も紫色の服を着ていらっしゃる小池都知事が今回担当していただくことになりました。よろしくお願いいたします。

【浜田愛音様】 よろしく願いいたします。

【飯野桜子様】 内閣最高顧問という立場で、今回小池都知事には、アドバイザーという形で私たちの活動に対して助言をしていただいたりだとか、そのように協力いただければと思っております。よろしくお願いいたします。

というわけで、4月より私たちの本格的な活動が開始するわけです。

【浜田愛音様】 各省での定例会がありまして、こちらでは政策を練っていく、政策を立案していくステップを行い、さらに次に、政策立案提言会がありまして、そちらでその政策を実際に提言する場になります。そして、各分野の有識者を交えた討論会などを行っていったらと思っております。さらには、ボランティアも兼ねた現場視察なども大切だなと私たちは思っております。そして、他団体の協力を得て、イベント企画を開催したいと我々思っておりまして、夏合宿等も企画できたらなと思っております。

【飯野桜子様】 まずここに政策立案とあるんですけども、一昔前には高校生が政策立案をするなんて考えることもできなかった。そんなビジョンが今実現されつつあるんですが、現在私たちは約10名ほどで活動しておりまして、数個政策が出来上がっております。今回はその1つを皆さんにご紹介できたらなと考えております。

日本の投票率が低いことは皆さん周知の事実だとは思いますが、世界にはこんな投票率をたたき出す国もあることをご存じでしょうか。では、この国がどんな秘けつを持ってこの投票率をたたき出しているかといいますと、実はその秘けつはソーセージという。このソーセージの秘けつを皆さんにお伝えしていきたいと思うんですが、この国、実はオーストラリアです。オーストラリアの中ではソーセージが大人気というわけで、実際投票日に慈善団体や学生団体がソーセージバーベキューを実施し、それと投票所が融合することによってより地域の方々が投票所に足を運びやすい雰囲気づくりとか、一緒にそこで対話を楽しんで投票所に行くということを、より楽しく面白く、そういう共感点も含めて行われている、そのような政策です。

というわけで、ソーセージの秘けつといいますと、こんな名言も生まれるほどの秘密を秘めております。オーストラリアの首相が今日いらっしゃいましたので、どうぞ一言よろしく申し上げます。

【浜田愛音様】 「オーストラリアの民主主義は、ソーセージの焼けるジュージューとしたにおいがなければ成り立ちません」。

【飯野桜子様】 ソーセージがなければ民主主義が成り立たない、そのような言葉が首相から出てくるほどのソーセージなんです。というわけで、私たちはそのソーセージの秘密に今回迫ってまいりました。そこで気づいた内容としては、現在、日本では政治というものは、親しみにくい、または難しい、そのような印象を抱いている国民が多いとされていますが、国であったり、地域の文化や伝統、それらと政治という親しみにくいものを結びつけることによって、より政治に対する先入観だったりとかいう意識改革ができていくのではないかなと考え、今回私たちが考えた政策案はこちらです。

【浜田愛音様】 お祭りとお票所を融合させる、お祭り×投票所政策です。お祭りというのは日本ではとても親しまれていて、老若男女、多くの年齢層の方々から親しまれています。そんなお祭りを投票所と融合させたらどうなのかという結論に至りました。投票を伝統にという大義を掲げまして。

【飯野桜子様】 実際にこのお祭り×投票所政策というのはどういうものかと説明いたしますと、皆さんご存じのお祭り、そのお祭りの屋台の並んでいる先に投票所を設置する。それによって、家族連れの方々だったりとかもより足を運びやすくなり、屋台の中に子供を預けられるブース等も設置し、子育て世代への思いやり等を。

【浜田愛音様】 このようなメリットが挙げられるので、とても有効かなと思っており

ます。

【飯野桜子様】 このメリットとして挙げられることは、親しみにくい政治と親しみやすいお祭りという、その伝統を融合させることによって政治に対する意識改革を行っていくということ、また、先ほど申し上げたように、子育て世代への思いやりを実現すること、また、実質的な投票率、政治への関心度をアップさせるということ、また、現在は地域の若者離れという部分が深刻化している等の記録がありますけれども、その部分を地域の学生等に協力を得て、学校の部活等にパフォーマンスを行っていただく、そのような場もお祭りの中に設けて、地域活性化、また地域のつながりをより強めていくというメリットもございます。

というわけで、ここで一言、内閣最高顧問の小池都知事にこの政策に関するご意見を求めたいなと思ったのですが、いかがでしょうか。

【小池知事】 後でね。後で。

【飯野桜子様】 かしこまりました。

それでは、一番最後に、今後4月より本格的に始動する我々高校生内閣となりますが、現在それに参加しようと考えてくださっている高校生の皆さんにこんな言葉をお届けしたいと思います。

【浜田愛音様】 「志ある高校生たちよ この春 内閣に集え」

【飯野桜子様】 「己を創り そして世界を変えてゆけ」

【浜田愛音様】 「挑戦を 恐れるな 変化を 恐れるな」

【飯野桜子様】 「君を支える仲間 は ここにいる」

【浜田愛音様】 「一生に一度の特別な「青春」 いま始まる」

【飯野桜子様】 「CHANGE YOURSELF, CHANGE THE WORLD」

高校生内閣始まります。

【小池知事】 ありがとうございました。すばらしいプレゼンテーションで、官房長官と内閣総理大臣の息が合っているか合っていないか微妙なところが良かったですね。本当に皆さんありがとうございました。

ということで、今日は、伊勢谷さんと、それから、高校生内閣のプレゼンテーションをいただきました。ありがとうございます。

さあ、ここから皆さんで、これをベースにしながらお話といたしましょうか、自分はどう考えるんだと。また、若い皆さんから、例えば2020年でもいいです。それから、2050年？

2050年という、幾つか。みんな計算して。私はあまり計算したくないけど。色々想定しながら、今のプレゼンテーションに対する皆さんのご意見伺っていきましようか。どうでしょう。

(高橋) みなみさん、いきなりだけど、どうでしょう。

【高橋みなみ様】 伊勢谷さんのおっしゃっていた、やはり東京オリンピック・パラリンピックを世界に向けて大きく発信するというのは、すごく私自身も、あぁいいなというふうに思いました。スマホで撮るとか、やはり今の現代の子たちというのはSNSが大好きなので、今、(飯野) 桜子ちゃんもうなずいてくれていましたけれども、本当に、正直、携帯なしには生きられないほどこの情報に頼っています。もし例えば仲良くなったらハイタッチでという発信があるとするならば、公式なハッシュタグをつくるとか、そういうものを世界共通につくると、「あっ、日本はこういうことをやり始めているんだ」というふうに色々な場所から発信できるんじゃないかな、つながれるんじゃないかなと。やはり世界交流というか、そういう場所であるのがオリンピックなのかなというふうに思ったので、何か面白いやり方があればいいなというのは思いました。

【小池知事】 ありがとうございます。それから、伊勢谷さんのところで、プレゼンの中に島しょ部をエコアイランドにという、そういう具体的な案がございました。西田さん、私も昨日大島と、それから、利島という島、ご存じ、皆さん? 「トシマ」でも、豊島区じゃなくて、利益の利で島で。

【飯野桜子様】 「リシマ」って読んでました。

【小池知事】 違う、「トシマ」なのよ、あれ。字を間違えないようにしてくださいね、皆さんね。そして、人口が314人。驚いたことに、出生率が3.16ということで、東京で最も高い。そして、若いカップルがそれだけ多くて、多くの若いカップルというのが、Iターン、つまり、そこの島の出身ではなくて、ここは楽しいといって引っ越してこられる方なんです。そして、そこは自然の幸があって、それから、利島もそうですし、昨日は椿まつりということで、まさしくツバキ。チャンネルはいつもあれですよ、カメラのデザインですけども、椿まつりということで行ってきました。

西田さんは、今、ベースが八丈? それで、どういうふうにエコアイランド構想感じました?

【西田圭志様】 三宅島ですね。

【小池知事】 あ、三宅島だ。ごめんなさい。

【西田圭志様】 エコアイランド構想はすごい面白いアイデアだと思いました。

【小池知事】 今、実際に魚、自分で釣ってらっしゃるわけでしょう？

【西田圭志様】 そうですね。

【小池知事】 どんな漁の仕方するんですか。

【西田圭志様】 僕がやっている漁は、キンメダイを釣りで釣るという漁をやっています。

【小池知事】 キンメダイ大好き、私。

【西田圭志様】 自給率などについては、水産物だと結構自給率が高くて、東京にもかなりの量を出荷していると思います。あとは、島の主要な産業だと、水産か、観光業なので、その2つを伸ばしていくことが大事だと思います。

【小池知事】 ありがとうございます。エコアイランド構想については、東京都ではこれから宝島プロジェクトというのをやりましてね。みんな宝島なんですよ。でも、住んでいる方々は、毎日がそんなすばらしい宝島に住んでいると、宝物だと思ってないケースが多い。というので、もう一度宝物探しというのを一つ一つ、有人、人が住んでいる島が東京都には11ありますので、それをやっていこうということでもあります。

それから、是非、今のお二人のプレゼンテーションでコメントしたいと、はい、実花さん。

【蜷川実花様】 私、高校生内閣のお話をすごく楽しく、私もどきどきしながら聞いていたんですけども、10代は自分をつくる時代というのがすごく重要だなと思っています。私自身もものすごい体感したことなんですけれども、10代って本当に何でもいっぱいスポンジのように入ってくるので、結構そこでつくった貯金で私なんか今、仕事をしているようなところがあるんですね。だけど、みんなやっぱり本当に状況も色々大変ですし、私、2児の母なんですけれども、保育園落ちたりとか、本当に働きながらやっていくのは大変なんですけれども、でも、やっぱり自分がやりたい仕事の仕事になるって本当に素敵なことだったりして、その時期にどれだけ、どういう自分になりたいかというのをみんなが諦めずにイメージできるかというのがとても大事なことだと思うんです。

何となく、特に女性の話になっちゃうんですけども、何か今、働く女性に憧れられなかったりとか、結婚すぐしたいとかいうことをすごくよく聞くので、そうじゃなくて、こういう面白いことがあるんだよというのを、大人の、働いているお母さんとして教えてあげられる機会があったらいいなとすごくいつも思っているんです。10代は自分をつくると

きだというだというのが今すごくぴたっとはまったというか、本当にそうなんだよというのを教えたくて。この時期にいっぱい焦ったらいいと思うんです。何か本当にみんなゆっくりしていると思うんですけれども、だらだらしているうちにあっという間に時は過ぎちゃうので、ここでどれだけ詰め込めたかって結構重要なので。もうそれ、多分皆さん体感していると思うんですけれども、20代からじゃはっきり言って遅いことたくさんあるので、10代にいっぱい色々なことを見てやったらいいよというのをお伝えするので、お伝えしてください、皆さんに。以上です。

【小池知事】 じゃ、レスポンス。

【浜田愛音様】 蜷川さん、貴重なコメントありがとうございます。自分自身それはすごく体感しております。10代のうちに何をするかというのはやっぱり将来が決まっていくことなので、夢とか希望というのは絶対に持ってほしいんです。この高校生内閣というのをつくる段階で私たちが一番大切にしているのが志というもので、その志がなければ、やはり政策立案とかにもつながらない。自分の志がしっかりしていなければ、政策なんて見つからないじゃないですか。自分がどんな意見を言いたいのか、どんな思いがあるのかということを行った上で、そういう考えを持った上でこそ政策立案なので、やっぱり10代のうちにそういう思いをちゃんと自分の中で決めておいて、それを行動に移せるだけの実行力をつけるのが私は一番大切なんじゃないかなと思っています。

【蜷川実花様】 やっぱり先ほどの冒頭の、何十年後はこんなことができるんだよみたいなことって、今もっとさらにできることって増えているので、自分の中の芯をいかに持つかというのがすごく大事だと思うんです。道具は道具としてどんどん便利になっていくから、私はこうありたいとか自分をしっかりつくる時期だと思うので、それを本当にみんなができたらいいなと心から思っています。

【浜田愛音様】 ありがとうございます。

【小池知事】 是非これを言いたいと。

はい、落合さん。

【落合陽一様】 落合です。この高校生内閣の資料で一番びっくりしたのが、僕はメディアアーティストで、文化・芸術と科学技術を使う人なんですけれども、女子は関心が一番低いのが5.6%が科学技術になっていて、男子が一番低いのが文化・芸術になっているんです。僕は両方やっているんですけれども、どちらも伝わっていないんだなというのがすごくよく分かる資料で。特に女子の5.6%って、全体の中で一番低いですよ。これは多分、

理系離れとか言われているものだとも思うんですけども、逆に言うと、女子が科学技術に入ってこないメディアアートは伸びないんです。文化・芸術に興味ある女子は18.8%もいるんですね。だから、テクノロジーかつアートに興味がある人というのがこれから増えていかないと、この世界は多分無骨な機械ばかりになるんです。何か壊れそうなものばかりになるんですけども、それは良くないなと思うので、是非文部科学省を強くしてほしいなと思います。

あと、もう2点だけコメントがあります。僕、伊勢谷さんのプレゼンで一番面白かったのは、どこまで無人化できるか、どこまでバーチャルリアリティ化できるかが多分キーワードだと思っています。多分、人を全部配置していくと雇用が回らないと思うんですけども、例えば島とかだったら、どこまで人がいなくてもそれはロボットと人間だけで回るのかとか、島の中だけだったら人を自動運転がはねない可能性が高いので、ある程度実験区域にしたら面白そうだなというのはありました。

【伊勢谷友介様】 何か新しい生活モデルの形として、色々な挑戦が島しょ部でできるんじゃないかというご提案ですよ。

【落合陽一様】 はい。

【伊勢谷友介様】 僕もそこまで大胆には考えてなかったんですけども、面白いなと思います。

【落合陽一様】 これ、すごく面白いなと思います。隔絶環境って何だか宇宙っぽいですよね。

【伊勢谷友介様】 そうなんですよ。そこでできちゃえば、ほかの所でもできるんじゃないかと僕思っていて、僕はこれをチェーン展開化しちゃったら、もう余計にいいんじゃないかと。つまり、その島でできるんだったら、風土が違って同じコンセプトで僕、できるんじゃないかなと思うんです。人間なので、取り入れているものと出しているものは大体同じ物質なんです。タンパク質とかその辺のものと、出ているものも大体茶色いものなので。だから、そういう意味では、結構そういうものを色々な地域にチェーン展開していくと、風土が違うので、行った場所に何か新たな発見がちゃんと生まれる。今って、画一化されている場所がどんどん増えていくというのが地方の現状なので、そういうことが島しょ部から始まると、外から見て、「あれ？ あそこが変わっている」。そしたら、「これ、やってみなよ」「はい、そうですか」とやったら、また違う風土の中で新しい完結した環境がまた生まれる。

僕はなぜそう言ったかという、グローバルで大きい地域でエネルギーをつくって、あそこはエネルギーつくっている地域、ここは食事をつくっている地域ってやることというのはすごく不安定になる要素だと思うんです。今ご指摘いただいたように、その地域で隔離させていることによって、この地域の特色というのがきちんと生まれるというのが本当に大事で、そうすると、多様性ということになると思うんです。つまり、例えばエネルギーを1つの場所で作ってしまうと、そこを壊してしまえば、日本が壊れる体系になっているんですね。これを何とか変えていきたいなというのも、隔離した環境の中で小さい中で衣食住と水、エネルギーを担保できるというのをやってみたい。その中でまたコンピューター（が活躍してくると思います）。僕、だから、落合さんと今日話すのちょっと楽しみだったんですね。どういうアイデアいただけるのかと思って。

【落合陽一様】 ありがとうございます。是非コンピューターやっていきます。

【伊勢谷友介様】 なので、今後ともよろしくお願いします。

【落合陽一様】 よろしくお願いします。

あと、1点だけいいですか。小池都知事のこれ（20世紀の豫言）の2ページ目、これが一番面白くて。この最後に、幼稚園の廃止って書いてあるんですよ、これ。幼稚園がなくていいと書いてある発想は、僕はなかったなと思って。何でかという、男女ともに大学を卒業しているので、家で幼稚園が済むと書いてあって。我々って保育園を大量につくらないといけないと言っているけれども、これから仕事に行かない社会になってきたら、別に保育園って多分レガシーになってしまうのだなと、この発想はなかったと思いました。つまり、箱物をいっぱいつくっても、我々がテクノロジーが発達してあまり出勤とかしなくなったら、子供は家で育てればよいというのが当然の発想になるんだなと思って、明治時代はそれが普通だったんだなと思ましてびっくりしました。コメントです。

【小池知事】 ありがとうございます。今も落合さんにこの20世紀の豫言というので、またこれ、一つ一つ読んでいくと、昔の仮名遣いになっているから読みにくいですがけれども、とても面白い。この頃の方が何かとてもクリエイティブだったような気がする。今は何かできない理由を探すのみならずまいんだけど、できることを考えたいというのをこのビジョン懇談会のベースにしていきたいと思います。

それから、（飯野）桜子さん、答弁うまいね。国会答弁みたいにパンパンと。そして、是非提案させていただきたいんですが、この組織構成図という高校生内閣ですけども、私は名誉なことに内閣最高顧問に命じていただいたんですが、是非今日の皆様方は内閣顧

間になっていただくということでしょうか。是非ご賛同いただければと思います。いかがでしょうか。いいですか。

すごいよ、今日。最強内閣ですよ。支持率60%行くよ。

あと、どうぞ、皆さんご自由に。はい、パクンお願いします。

【パクン（パトリック・ハーラン）様】 僕はあちこちで日本のだめ出しをさせていただくことがありますけれども、今日も、この高校生内閣の皆さんのデータの中に、現状に希望を持っている割合とか、変えられる希望を持っている割合とか、世界的に非常に低くて残念だねと思います。まずこの会議も含めて日本を変えていこうと思っている皆さんは、日本の強みをまず思い出さなきゃいけないと常々感じます。

ですから、今日はあまりだめ出ししないで、その強みを思い出していきたいなど。例えば治安のよさとか、倫理・道徳レベルの高さ、教育レベルの高さ、統治力とか、あと、問題に真正面から取りかかって解決していきたい、この気持ちがものすごく大事なものであって、変えたいと思っても協力してくれる人がいないほかの国々とは違います。すぐ上から押さえてしまう国と違います。日本はもうみんなが変えようと思えば変わる国です。この15年でどれだけ変わる。例えば歩きたばこがなくなったのかとか、グリーンエネルギーに対する気持ちが高まっているのかとか。

日本、特にこの東京は、今言っていた強みの上に、例えば人口密度が高い。これは例えば住宅が高いとかそういうマイナス面もありますけれども、色々な面で強みにもなるんです。グリーン革命を起こそうと思っていれば、非常に効率的なまちづくりはできるはずですよ。自動運転の車を普及させようと思えば、もうユーザーがこれだけ集まっているところですから、すぐビジネスモデルとして成り立つはずですよ。可能性がいっぱいあります。

今日のプレゼンから2つだけヒントを得て、僕からの提案、お勧めさせていただきますと、投票率を上げたいというのがありました。祭りリンクするのもすばらしいアイデアなんですけれども、単純に投票所をコンビニにすればいいんじゃないかなと思うんです。マイナンバー制度が普及しています。みんながクレジットカードという身分証明書を持ち歩いています。毎日行っているコンビニですからできるんじゃないかなとか、ちょっと頭やわらかくすれば色々な解決策は思い浮かぶんじゃないかなと。

もう1つ、伊勢谷さんの2020年オリンピックは、例えば建物もすばらしい象徴になるかもしれないですけども、オリンピックの意義をもって世界にアピールするというのもすばらしいアイデアだなと思って。

グリーン都市、百合子グリーンの都市であって、エネルギー政策も東京から変えていくという点もあるんじゃないかなと思って。僕、以前調べたのは、例えば原発1基分の発電能力を持つ太陽光電池ってどれぐらいの面積かかるのかなと思って、多分一番悲観的な数字を出す電力会社のページを見たら、山手線内全部敷き詰めなきゃいけないという非常に残念な数字が出たんです。

でも、今、実際に使えない土地どこかないのかなと思ったら、避難している皆さん、帰宅困難区域が福島にありまして、その皆さんは生活に困っています。東京はグリーン発電したいけど、もちろん山手線内全部敷き詰めることはできない。例えば帰宅困難区域を特区として、全部は言い過ぎかもしれないですけども、半分だけでも敷けば幾らぐらいできるのかなと思って計算してみたら、原発20基分は簡単にできるわけです。今、逆に使えない、生産性のない土地になって、その土地の持ち主の皆さんのためにもなる、世界のためにもなる、東京のためにもなる。こういうアイデアをこういう会議とかを通してどんどん出して、皆さんの気持ちが変われば、絶対日本は、世界は変わるところだなと感じます。

【小池知事】 ありがとうございます。日本は変わるときはすぐ変わるというので、私、クールビズを始めました。

それからあと、さっき原発の話もありましたけれども、今度の政策で、白熱球の電球、これを2個持ってきたら、LEDを1個差し上げます。これはロンドンのリビングストーン市長がやったことがあるんですね。100円ショップで2個買ってきて上等のLEDに換えるというようなことがあまりないように今工夫しているところですけども、日本中の照明がLEDになると、何と原発13基要らなくなるということもあります。だから、色々な、やわらか頭で皆さんに共感を抱いていただけるような、そんな東京をつくっていきたいなと思っております。

さあ、皆さん、ごめんなさいね。もう6時になっちゃったんだけど、是非これは今日言っとかなくちゃという方、どうぞ。はい、田根さん。

【田根剛様】 言っとかなくはというのもあるんですけども、先ほどお話を伺ったときに、冒頭に20世紀の予想の話が都知事からお話があって、非常にすごいなと。空想がやっぱり現実になるか、100年経てば現実になっているんだという、本当に最初、すごいなと驚いていた後にプレゼンを伺っていると、何かハードなもので、ハードソサエティで物質的なものが未来をつくるというところから、何か今伺ったプレゼンテーションを聞いても、環境のことであったり、意識改革であったり、または感情のことであったりとか、エ

エネルギーのこととかというと、もっとすごいやわらかいもの（ソフトサイエティ）が自分たちの未来をつくってくれるんじゃないかという、そっちに希望が向かっていると思うと、物ではなくて、かたいものではなくて、もっとつながり合ったりとか、やわらかいものであったりとか、自分たちの生活がどう動いているんだろうかという、そういうやわらかいものが、何か未来が生まれてくるのかなというのを伺いながら聞いていた感じでした。

【小池知事】 ありがとうございます。

今日はオリンピック、パラリンピックの皆さんもいらっしゃるけれども、太田さん、是非ご提言。

【太田雄貴様】 すばらしいプレゼンテーションありがとうございました。こんな高校時代だったら、僕ももうちょっと変わったフェンシングキャリアを歩めたんじゃないかなと思います。蛭川さんのお話もあったかと思うんですけども、僕も小学校3年でフェンシングを始めて、4,300日間1日も練習を休まずに、継続は力なりという言葉で13年間、21まで1日も練習を休まなかったので、10代の間にたくさん詰め込んでほしいなと思います。

伊勢谷さんの方から色々ご提言あって、現実的にできる問題とできない問題がある中でのご指摘だったんじゃないかなと思います。1点だけちょっと気になったのは、パラリンピックから始まる五輪でというところで、非常に僕もそれ、昔は共感していたんですね。しかしながら、ロンドンオリンピックが史上最高のオリンピック・パラリンピックだったというふうに僕は思っています。自分も出場してそう感じています。それはなぜかというと、まずボランティアの参加率、あともう1つは、自国の選手が出ていない大会で観客動員数がすごく多かった。観客がばんぱんだったわけですね。残念ながら、昨年のリオは空席が結構目立ったということがありました。その中で、オリンピックのみならず、パラリンピックも非常に市民の関心が高く、連日テレビでも放映されました。

パラリンピックが盛り上がらないという考え方自体が、もしかしたら僕たちは日本の中の常識にとらわれてしまっているのではないかなと思ったので、いかにしてオリンピックとパラリンピックを同等として捉えていくか。パラリンピックをオリンピックと違うブランディングにしていくか、ということをも1つの2020年の目標に掲げたらいいんじゃないかなと思いました。以上になります。

【小池知事】 ありがとうございます。

田口さん、お願いします。

【田口亜希様】 ありがとうございます。私も伊勢谷さんにパラリンピックから始まる

五輪でということ、どうしても関係者、自分たちも含めてそういう人たちはそういう意見を言ってくださったりするんですけども、全く関係ないと言うとあれなんですけれども、伊勢谷さんから言っていたのは、実現できるかどうかは別としてすごくうれしいなと思いました。

おっしゃったとおり、2回目の夏季パラリンピックを開催する都市ですし、パラリンピックという名前を公式に使い出したのも日本が、1964年が初めてなので、やっぱり誇りを持って2020年パラリンピックを見ていただきたいと思いますんですけども、私はパラリンピアンでありますし、そういうスポーツ業界にいますので、よく皆様がすごく応援してくださるのは分かるんですけども、一歩外れると、例えば私、普通の会社員なんですけれども、外れると、パラリンピックって？ とか、2020年が決まって、皆さん名前は分かっているんですけども、じゃ、競技は何があるか。小池都知事もしてくださっているボッチャとか、そういうものなかなか一歩外に出るとご存じない方がたくさんいらっしゃいますので、そういう意味では、私たちパラリンピアンもどんどん広めていかないといけないんじゃないのかなと思っています。

あと、日本では、オリンピックは健常者が見るもので、パラリンピックは障害者が見るものって何となく思われている部分があります。実際同じプール会場を日本で使っていて、私、障害者の水泳を見に行っただけです。そうすると、ちゃんと出っ張ったところが車椅子席になっていました。そこで楽しんで、次に健常者の北島康介さんの最後の試合を見に行くと、そこが車椅子席だと思って行くと、そこはカメラマン、テレビ局のカメラの席になっている。じゃ、障害者はどこで見ますかという感じで、そういう何となく、何でだろうと。健常者の試合も障害者は見たいんだという、そういう部分とか、色々な思い込みみたいな部分があるのではないのかなと思います。そういう部分も私たちがやっぱり訴えていくというか、実感した者、経験した者が言っていないといけないと思いますので、こういう場所でも是非伝えていきたいと思いますので、応援していただけたらと思います。

あと、高校生内閣、太田さんもおっしゃいましたけれども、私もこれだけ考えていけば、10代の頃、もう少しまともになれたんじゃないのかなと思うぐらいですね。私は太田さんと違って、病気になってから射撃を始めたんですね。それまではスポーツは全くしていませんでした。病気になった後に、ちゃんとというか目的を持ってやり出したんです。でも、もちろんこういうのがすごく考えられるのも、もちろん目的を持って、意志を持たれてい

る方。ただ、10代でも、自分がそうだったんですけれども、何をしていたか分からないという部分もあるんですね。そういう方たちには是非色々なチャンス、色々なことを。私もスポーツを全くしてないといっても、遊びで色々なスポーツはやっていましたので、そういうチャンスが後に生きるということもあると思うんです。そのとき見つけられなくても。そういうのもどンドン考えていけたらなと思いますし、私はスポーツを始めて、射撃を始めて目標を持つことができやっぱり自分が立ち直ったというか、車椅子でも生活していく力をつけたと思っていますので、是非文部科学省の中にスポーツ庁も入れていただければなと思います。よろしく願いいたします。

【小池知事】 ありがとうございます。

（長谷部） 区長はどうですか。

【長谷部健様】 回ってきた。すみません。すごく、何て言うんだらうな、多分これだけスペシャル、ここにいる人たちがこれだけ多様な人たちがこうやって集まっているので、色々な意見が出て面白いなと当然思ったんですけれども、せっかくなので、やっぱり東京というこの都市は、本当にエリアによってまた色々な文化が違って多様だと思うんです。だから、さっき冒頭に知事から見せてもらった100年先のビジョンって、やっぱり共感した人多いと思うし、ああいうものを僕らが、あの形じゃなくて、何か提案ここでできたらすごくいいんじゃないかと思ったんです。

東京のエリア、さっき言ったように多様です。例えば渋谷でいうと、若者の文化が集まっていたりとか、あとは、それこそエンタメのもっと集まった所になればいいと思うし、かといえ、今度、六本木と渋谷区って、近くて隣り合わせですけれども、またそれは文化が全然違って。でも、IT企業が集積していたりとか、これから国際性をもっと伸ばしていこうというエリアでは同じかもしれない。今日は、医療とか福祉の人もいるのでそういうのでいうと、東京でいうと中央線って意外に大きな病院が点在していて、意外にあそこで医療のことを考えていくと。だから、そうやってエリアを、今の区とかの単位じゃなくて区切って考えていくと、それぞれの皆さんのスペシャリストなところが反映できるアイデアがすぐにでも実験できるような所って出てくるんじゃないかなと思ったんです。

だから、もし良かったら、東京都の地図をみんなで見ながら、このエリアではこういうことを、このエリアではこういうことと。例えば教育とか福祉というのはそれぞれに共通しますけれども、でも、このエリアの特性を生かして、ここのエリアはIT推進にしたり、もっと言えば、自然と触れる所とか、国際競争力を持つためのとか、色々そうやってプロ

ットして行って、最初はばんばんみんなで好きなアイデアを出せば良くて、それが最後、何回かかけてまとめていけると、何か面白い未来予想図がこのメンバーだったらできるんじゃないかというのを感じました。

ちなみに、今日持ってくれば良かったんですけども、パリ市がすごいビジョンを出していて、それも2050年かその先のパリ市みたいなのが絵になっている。もうまちじゅう緑で、すごいこんなぐねぐねの建築物があって、僕からすると、「ドラえもん」で読んだ21世紀より相当先行っているなみたいな。あそこまでのものを目指す必要はないんだけど、やっぱり東京として、世界に誇る、世界の中の東京ということをみんなで考えながら、でも、ローカルのそういった色々な所にプロットして色々考えていくと、何かこの会議すごく面白くなるんじゃないかなと、差し出がましくも何か思いながら聞いておりました。

【小池知事】 ありがとうございます。皆さんお一人お一人全員からお話伺いたかったんですが、時間の方が迫ってまいりました。

ちなみに、私は大体、中東の専門家なんですけれども、17歳のときに方向性を決めて、中東に行くことに決めておりました。今日はいらしてないんですけども、モハメド・オマル・アブディンさんという方はスーダン人の方なんです。次回はいらしていただけるというふうに思います。

世界は広いですし、その中で都市間競争というのはこれからすごく進んでいく、速いと思います。その中で、東京を魅力的、世界で1番にしたいと思っています。私もリオのオリンピックもパラリンピックも行きまして、着物でずぶ濡れになりましたけれども、あそこで思ったのが、パラリンピックの方々、車椅子の方々の居場所が意外とあまりなかったですよね。それから、目線が低くなるから、その分見えないとか、やっぱり実際行って色々参考になりましたので、そういったことも改善していきたいと思います。

それから、私もウエイトリフティングの会長をやっていたので、世界の副会長を狙っていたんです。なぜならば、ルールです。ルールを決める方に回らないと、日本は不利になってしまうケースがこれまでもいっぱいあったからね。というので、色々なことを考えながら2020年のオリンピック。

それから、これは皆さんにこれから聞いていきたいと思っています。やっぱり例えば2030年、40年、50年？ 宿輪さん、今、i P S細胞なんかでこれからますます寿命が延びちゃうということになると、2050年私生きているかもしれないんだけど、その辺のところ、年代の設定で、さっき（長谷部）区長がおっしゃったようにどこか目安を決めて、そして、皆さ

んの得意範囲の分野でぼんぼんと色々と提言いただければなと思います。

ちなみに、私、前に色々と将来の設計というので、例えばこれ（20世紀の豫言）なんか100年後でしょう。50年後、100年後、500年後でずっとやっていったら、100年後も500年後も大体似たような案しか出てこなかった。だから、マックスで100年ですね。現実感があるところで、皆さんの場合だったら2050年かなと思ったりするんだけど、またそれぞれ皆さんのご意見を伺いながら、東京が、こんなのだったらいいなと思うようなそんなことを皆さんこれから次の会までに考えていただいて、介護だったらどうした方がいいか、幼稚園は要らないかもしれないとか、皆さんの活発な意見を伺おうと思っています。百年の計なんていうのは、森林などはまさしく百年の計ですよ。そういうようなことなど、すみません、もう今日はこれで時間がなくなったので、次回に備えていただきたいと思います。

最初、キックオフでしたから、皆さんが自由に縛られることがなくこのようにお話しただきました。これからはちゃんと方向性を持ちながら、皆さんのそれぞれの得意範囲が活かせるようなそんなビジョ懇、美女・美男懇、進めていきたいと思っています。ということで、これからもどんどんと新しい意見、とんでもない意見、「嘘!？」というような意見、そういったことを出していただいて、それでも一つ一つ実現できるようにしていきたいと思っています。今日は皆さん、ご参加誠にありがとうございました。

— 了 —